

第5学年 外国語科学習指導案

令和4年 11月15日(火)
第5校時 13:40~14:25
5年1組 23名
指導者 丸井 陽介
西田 美紀
ALT ジャスティン

1. 単元名 「あこがれの人を紹介しよう」
(教材名 『Junior Sunshine 5』(開隆堂出版) Lesson 6 「My Hero」)

2. 単元について

(1) 教材について

- 本単元では、自分のあこがれている人(ヒーロー) についての話を聞いたり、自分のヒーローを紹介したりする。ジムと和矢が自分の好きなスポーツなどの達人を紹介する一方、ハンナのヒーローは姉であり、有名人だけでなく身の回りの頑張っている人も「ヒーロー」であることを示している。これらの登場人物の話を聞きながら、児童は自分にとってのヒーローを思い浮かべ、発表会ではいろいろな人の良さを知り、自分もヒーローたちに近づきたいという思いが芽生えてくると思われる。
- 言語材料としては、代名詞の he/she を学習し、これまで「自分とあなた」の間での会話が多かった児童が、第三者について語るができるようになる。文字については、大文字で書き始めるときのルールについて学び、4本線上で単語等を書き写すことができるようになる。

(2) 児童について

- 本単元で児童に付けさせたい力は「話す力」・「書く力」である。
- 2学期当初にとった児童アンケートでは、「自分の思いや考えを英語で伝えることができる」の項目で70%の肯定的回答があった。これまでの外国語学習で自分の思い・考えを伝え合う活動を積み重ねてきたことで、子どもたちは英語によるコミュニケーションの楽しさや達成感を実感することができている。
- 令和3年度の6年生を対象にした英検 ESG 4 技能版の結果を見ると、「話すこと」及び「書くこと」に関するすべての問題で目標値を上回る結果だった。技能別に見ると、「話すこと」では、イラストに関する質問に答える問題の正答率が高かったものの、自分のことについて発表する問題では、正答率が低くなっていた。また、「書くこと」では、1つの文を書き写す問題の正答率が高かったものの、文字の名前を聞いてその文字を書く問題では、正答率が低くなっていた。
- 本学級の児童の学習状況を見ると、「話すこと」では、チャンツやゲームに意欲的に取り組んだり、発表の際に進んで話そうとしたりする望ましい姿が見られる。一方で、フレーズをただ暗記した発表に終わるなど、他者意識をもった表現力には課題が見られる。また、「書くこと」では、アルファベットや簡単な単語を4線上に書く練習をしてきたが、まだ十分に定着までは至っていない。

(3) 指導について

「話す力」、「書く力」の育成を目指して、次の3点を指導のポイントとする。

- ① イラストや写真を見て簡単な質問に英語で答えることができるようにするために、毎時間教科書等にあるイラストや写真に関する質問をし、英語で答えさせる活動を行う。
- ② 質問を聞き取った上で、適切に応じる力を育成するために、授業開始後に Small Talk を週1回継続して行う。その際、児童がコミュニケーションの楽しさを実感できるよう、児童の興味関心に沿った内容にする等工夫する。また、教師の英語を聞いて、内容を把握し、自分のことについて簡単な英語で話すことができるよう指導する。
- ③ 言語活動の充実を図り、自分の考えや思いを表現する力を育成する。そのために、次の視点を大切にして言語活動を設定する。

1	必然性	お互いのことをよりわかり合うために、自分のあこがれの人を自分で決定し、友だちに伝えたいという思いをもつ。また、友だちによりよく知ってもらうために、自分の考えや気持ちを含めて話す必要があるため、相手に伝えたいや理解してもらいたいという目的意識、友だちのことを知りたいという思いをもって活動に取り組む。
---	-----	---

2	自分の本当の気持ち	自分の好きなことや興味があること、得意なことを、イメージマップを活用して表現し、自分を見つめ直す時間を設定する。それをもとにして、あこがれの人を自分で決定する。友だちに伝えたいという思いをもって、あこがれの気持ちを表現する。
3	相手意識	自分のあこがれの人について、友だちによく知ってもらうために紹介の仕方を考える。聞き手は、リアクションの言葉で反応しながら聞く。ポスターを書き、聞いている人にわかりやすく発表する。
4	コミュニケーションの意義や楽しさ	自分のあこがれの人について、友だちによく知ってもらうための紹介の仕方を考えたり、ポスターを書いたりすることで、自分の思いが相手に伝わった喜びを感じたり、さらに工夫して伝えようとしたりする。

3. 単元の目標

単元の目標	自分のあこがれの人について友だちによく知ってもらうために、伝えたい内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含め、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。また、自分のあこがれの人を紹介するメモやポスターを、例文を参考にしながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書き写すことができるようにする。
学習指導要領 「領域別目標」	話すこと〔発表〕 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 書くこと ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

4. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと〔発表〕	〈知識〉 動作を表す語句や、“He/She can ～.” “He/She is good at ～.” など、第三者ができることや得意なことを表す表現を理解している。 〈技能〉 できることや得意なことなどについて、動作を表す語句や “He/She can ～.” “He/She is good at ～.” などを用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。	自分のあこがれの人について友だちによく知ってもらうために、その人のできることや得意なことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。	自分のあこがれの人について友だちによく知ってもらうために、その人のできることや得意なことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。
書くこと	〈知識〉 大文字で書き始める単語のルールを理解している。 〈技能〉 単語を正しく4線上に書く技能を身に付けている。	あこがれの人を紹介するメモやポスターを作るために、例文を参考にしながら、身近な単語を4線の正しい位置に書き写している。	あこがれの人を紹介するメモやポスターを作るために、例文を参考にしながら、身近な単語を4線の正しい位置に書き写そうとしている。

5. 単元指導計画と評価計画（全7時間）

単元計画		評価の計画 ◎：記録に残す評価		
単元のゴール 「あこがれの人を紹介しよう！」		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1時	「できることについてたずねよう」 動作を表す語句について、できることをたずね合うことを通して、理解することができるようにする。	「話すこと【発表】」 動作をあらわす語句について理解している。		

第2時	「ヒーローについての話を聞こう」 あこがれの人を紹介する表現について、動作を表す語句や“He can ~.”に着目して聞く活動を通して、理解することができるようにする。	「話すこと【発表】」 動作を表す語句や、“He/She can ~.” “He/She is good at ~.”など、第三者ができることや得意なことを表す表現を理解している。		
第3時	「友だちができることを紹介しよう」 “He/She can ~.”を活用した友だちができることについて、友だちにインタビューした情報を別の友だちに紹介する活動を通して、話す技能を身に付けることができるようにする。	「話すこと【発表】」 できることについて、動作を表す語句や“He/She can ~.”などを用いて、話す技能を身に付けている。		
第4時 (本時)	「友だちが得意なことを紹介しよう」 “He/She is good at ~.”を活用した友だちの得意なことについて、友だちにインタビューした情報を別の友だちに紹介する活動を通して、話す技能を身に付けることができるようにする。	◎「話すこと【発表】」 得意なことについて、動作を表す語句や“He/She is good at ~.”などを用いて、話す技能を身に付けている。		
第5時	「あこがれの人を紹介するポスターを作ろう！①」 自分のあこがれの人についてよく知ってもらうために、その人のできることや得意なこと等について、例文を参考にしながら、書くことができるようにする。	◎「書くこと」 大文字で書き始める 単語のルールを理解し、単語を正しく4線の上に書く技能を身に付けている。		
第6時	「あこがれの人を紹介するポスターを作ろう！②」 自分のあこがれの人についてよく知ってもらうために、その人のできることや得意なこと等について、例文を参考にしながら、書くことができるようにする。		◎「書くこと」 あこがれの人を紹介するメモやポスターを作るために、例文を参考にしながら、身近な単語を4線の正しい位置に書き写している。	◎「書くこと」 あこがれの人を紹介するメモやポスターを作るために、身近な単語を4線の正しい位置に書き写そうとしている。
第7時	「あこがれの人を紹介しよう！」 自分のあこがれの人についてよく知ってもらうために、その人のできることや得意なことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話すことができるようにする。	◎「話すこと【発表】」 できることや得意なことなどについて、動作を表す語句や“He/She can ~.” “He/She is good at ~.”などを用いて、話す技能を身に付けている。	◎「話すこと【発表】」 自分のあこがれの人について、友だちによく知ってもらうために、その人のできることや得意なことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。	◎「話すこと【発表】」 自分のあこがれの人について、友だちによく知ってもらうために、その人のできることや得意なことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。

6. 本時の指導

5年1組	教科	外国語	指導者	丸井 陽介 西田 美紀 ジャスティン (ALT)
単元名・題材名	あこがれの人を紹介しよう！		時	4/全7時間
ね ら い	<p>A He/She is good at ～. を活用した友だちの得意なことについて、</p> <p>B 友だちにインタビューした情報を別の友だちに紹介する活動を通して、</p> <p>C 話す技能を身に付けることができるようにする。</p>			
評 価	【評価規準】 得意なことについて、動作を表す語句や“He/She is good at ～.” などを用いて、話す技能を身に付けている。			
	【観点】知識・技能		【評価方法】行動観察・記述分析	
展 開	○友だちチャンツを行った後、「めあて」を位置付ける。			
	<p>【めあて】友だちが得意なことを紹介しよう</p>			
	<p>・ジャスティン先生、西田先生のヒーロー紹介を聞き、内容の確認を通して、「できること」「得意なこと」の表現を確認させる。</p> <p>・自分が得意なことをワークシートに書かせる。(I am good at ～【名詞・動名詞】.)</p> <p>・教師によるデモンストレーションを見た後、ペアで得意なことについてお互いにたずね合わせる。</p> <p>★ What are you good at ? ⇒ I am good at ～.</p> <p>【個】表現に自信がない児童には、教師と練習をした後に友だち同士でやり取りができるようにする。</p> <p>・別のペアと4人組をつくり、ペアの友だちが得意なことを紹介し合わせる。</p> <p>★ This is my friend ○○. He/She is good at ～.</p> <p>・2組のペアに発表させ、表現が正しく使用できているかの視点で、中間評価を行う。</p> <p>・中間評価で確認したことを踏まえ、4人組を変えながら紹介をさせる。</p> <p>○本時の学習を通して、He/She is good at ～. が正しく使えるようになったかの視点で「振り返り」をさせる。</p>			
<p>【振り返り】 ・He/She is good at を使って、友だちの得意なことを正しく紹介することができた。</p>				

《本時の評価基準》

- 十分満足 A 友だちが得意なことを表す表現を理解し、正しく使って話している。
He/She is good at (playing soccer) .
- おおむね満足 B 友だちが得意なことを表す表現をおおむね理解し、話している。
He/She ... good at (playing soccer) . He/She is good ... (playing soccer) .
- 努力を要する C 得意なことを表す表現を理解していない、またそれを使って十分に話せていない。
He/She ... good ... (playing soccer) .